



2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月5日

上場会社名 キッズウェル・バイオ株式会社
 コード番号 4584 URL <https://www.kidswellbio.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷 匡治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長 (氏名) 栄 靖雄

TEL 03 - 6222 - 9547

四半期報告書提出予定日 2021年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	740	324.5	450		463		463	
2021年3月期第2四半期	174	44.4	682		693		696	

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 414百万円 (%) 2021年3月期第2四半期 605百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	15.30	
2021年3月期第2四半期	24.49	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	3,859	1,998	48.0
2021年3月期	3,933	1,610	38.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 1,853百万円 2021年3月期 1,494百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,900	90.7	1,720		1,740		1,323		42.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は主として年次での業績管理を行っていることから、通期の業績予想のみ記載しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	31,434,047 株	2021年3月期	29,622,847 株
期末自己株式数	2022年3月期2Q	92 株	2021年3月期	92 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	30,270,727 株	2021年3月期2Q	28,424,005 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

当社は、2021年11月8日(月)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会は当該四半期決算補足説明資料を用いて実施いたしません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、「バイオで価値を創造する」の実現に向けて、これまでの事業活動で得てきたバイオ技術に関するノウハウ及び知見を最大限活用し、従来より手掛けてきた希少疾患、難病に加えて、小児疾患を重点的なターゲットと定めております。これらの疾患に悩む患者様、そのご家族や介護者の方を含めた包括的なケアを目指して、新薬のみならず新たな医療の開発・提供をより一層加速化させるため、2021年7月1日より新たにキッズウェル・バイオ株式会社としてスタートし、2021年2月15日に公表した5か年中期経営計画の各事業における今後の具体的な戦略方針と成果目標を確実に達成するべく、心機一転、全社一丸となって活動を強化しております。

当第2四半期連結累計期間における各事業の進捗状況は以下のとおりであります。

① バイオ後続品事業

富士製薬工業㈱と持田製薬㈱による好中球減少症治療薬「フィルグラスチムBS」の原薬販売及び2019年11月27日より販売が開始された㈱三和化学研究所と共同開発を行っていたダルベポエチンアルファバイオ後続品の売上高に応じたロイヤリティによる収益を安定的に計上しております。また、千寿製薬㈱と共同開発を行ってきたラニビズマブバイオ後続品について、2021年9月27日付で、同社が国内での製造販売承認を厚生労働省より取得し、事業収益化に向けて大きく前進いたしました。その他、開発中のパイプラインについても着実に開発活動を推進しております。

② バイオ新薬事業

次世代型抗体医薬品等の研究開発を進めた結果、2020年1月にがん細胞内侵入能力を有する抗体を用いた抗がん剤の開発を目的として札幌医科大学との共同研究契約、同じくがん細胞殺傷効果を有する新たな抗体の取得を目的としてMabGenesis㈱との共同研究契約をそれぞれ締結しました。また、上述の5か年中期経営計画にて公表いたしましたとおり、早期新薬パイプラインとして悪性リンパ腫、血管炎、肺高血圧症の根治を目指す医薬品の研究開発及びパートナーリング活動を進めております。

③ 新規バイオ事業

当社は、再生医療事業の研究開発において、重要な研究ソースとなる乳歯歯髄幹細胞 (SHED) 及び心臓内幹細胞 (CSC) を活用したプロジェクトの推進、アカデミア及び企業との共同研究または提携を推進しております。

SHEDについては、骨及び神経疾患といった分野で新たな治療法を提供できる可能性を複数のアカデミア及び企業に評価いただき、それぞれ研究開発活動を推進しております。このうち、多数のパイプラインで疾患に対するSHEDの明確な有効性が非臨床試験にて確認されており、導出に向けて着実に前進しております。

CSCについては、小児の重篤な心臓疾患である機能的単心室症を主な対象とした再生医療等製品の開発（開発番号JRM-001）を推進しております。2020年10月に当該開発品の第3相臨床試験において、患者様自身の組織に由来する自家細胞を用いた自家再生医療等製品の実用化で豊富な実績を有する㈱ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングを製造パートナーとして加え、さらに2021年6月に厚生労働省における希少疾病用再生医療等製品に当該開発品が指定されました。

そのほか、将来の成長戦略として、高い治療目標を達成するために強化型細胞治療「デザイナー細胞」の具体的な進捗として、2021年9月8日にナノキャリア株式会社と共同研究契約を締結し、開発活動を本格化させております。また、再生医療分野での事業を進展させていくための重要なステップとして、SHEDを再生医療等製品として製品化するための基となるマスターセルバンク (MCB) 開発について、SHED製造の原料となる乳歯を提供頂くための体制構築のため「ChiVo Net 未来医療子どもボランティアネットワーク」、東京大学医学部附属病院、昭和大学歯科病院、それぞれとの連携を進めてまいりました。今般、その準備が整ったことから㈱ニコン・セル・イノベーションのGMP/GCTP対応製造施設において、マスターセルバンクの製造を開始いたしました。これにより当社における再生医療等製品の研究・開発活動を加速すると共に、アカデミアや企業との連携による研究・開発パイプラインの強化を進めてまいります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は740,635千円（前年同四半期比324.5%増）、営業損失は450,932千円（前年同四半期は営業損失682,725千円）、経常損失は463,616千円（前年同四半期は経常損失693,599千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は463,221千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失696,079千円）となりました。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う当第2四半期連結累計期間における業績への影響はありませんでした。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末比1.9%減の3,859,062千円となりました。これは主に、仕掛品が237,397千円増加したものの、現金及び預金が486,916千円、売掛金が63,834千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比19.9%減の1,860,343千円となりました。これは主に、受注損失引当金が96,000千円増加したものの、転換社債型新株予約権付社債が400,000千円、未払金が185,967千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比24.1%増の1,998,718千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を463,221千円計上したものの、資本金が387,377千円、資本剰余金が387,377千円、その他有価証券評価差額金が48,255千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ486,916千円減少し、974,242千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は857,808千円となりました。これは主に、受注損失引当金の増加96,000千円があったものの、税金等調整前四半期純損失の計上462,471千円、棚卸資産の増加265,404千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増減はありませんでした。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は370,892千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行による収入370,892千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年10月21日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,461,158	974,242
売掛金	816,737	752,902
製品	70,712	98,719
仕掛品	380,039	617,437
前渡金	431,718	575,136
その他	185,943	185,002
流動資産合計	3,346,310	3,203,440
固定資産		
有形固定資産	3,223	2,425
無形固定資産	2,622	2,277
投資その他の資産		
投資有価証券	563,159	632,690
その他	18,636	18,228
投資その他の資産合計	581,795	650,919
固定資産合計	587,641	655,622
資産合計	3,933,952	3,859,062
負債の部		
流動負債		
買掛金	109,739	114,534
未払法人税等	28,461	32,629
受注損失引当金	379,243	475,243
その他	596,875	411,672
流動負債合計	1,114,319	1,034,080
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	500,000	100,000
長期借入金	600,000	600,000
退職給付に係る負債	19,755	15,495
その他	89,491	110,768
固定負債合計	1,209,246	826,263
負債合計	2,323,566	1,860,343
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,032,179	1,419,557
資本剰余金	10,337,779	10,725,157
利益剰余金	△10,078,706	△10,541,928
自己株式	△73	△73
株主資本合計	1,291,179	1,602,713
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	202,965	251,220
その他の包括利益累計額合計	202,965	251,220
新株予約権	116,240	144,785
純資産合計	1,610,385	1,998,718
負債純資産合計	3,933,952	3,859,062

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	174,487	740,635
売上原価	39,964	275,700
売上総利益	134,523	464,935
販売費及び一般管理費		
研究開発費	403,208	532,689
その他	414,040	383,178
販売費及び一般管理費合計	817,249	915,868
営業損失(△)	△682,725	△450,932
営業外収益		
受取利息	36	6
為替差益	103	—
資材売却収入	—	1,650
雑収入	669	47
営業外収益合計	809	1,704
営業外費用		
支払利息	7,985	7,761
株式交付費	2,959	4,127
為替差損	—	2,264
雑損失	737	235
営業外費用合計	11,682	14,387
経常損失(△)	△693,599	△463,616
特別利益		
新株予約権戻入益	—	1,144
特別利益合計	—	1,144
特別損失		
固定資産除却損	0	—
減損損失	1,449	—
特別損失合計	1,449	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△695,048	△462,471
法人税、住民税及び事業税	1,031	750
法人税等合計	1,031	750
四半期純損失(△)	△696,079	△463,221
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△696,079	△463,221

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△696,079	△463,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	90,615	48,255
その他の包括利益合計	90,615	48,255
四半期包括利益	△605,464	△414,966
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△605,464	△414,966
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△695,048	△462,471
減価償却費	561	1,143
減損損失	1,449	—
受注損失引当金の増減額(△は減少)	24,000	96,000
受取利息及び受取配当金	△36	△6
支払利息	7,985	7,761
売上債権の増減額(△は増加)	576,630	63,834
棚卸資産の増減額(△は増加)	△48,508	△265,404
前渡金の増減額(△は増加)	34,673	△143,418
仕入債務の増減額(△は減少)	11,442	4,795
未払金の増減額(△は減少)	△22,547	△187,418
その他	15,082	36,715
小計	△94,317	△848,468
利息及び配当金の受取額	36	6
利息の支払額	△7,927	△7,846
法人税等の支払額	△2,430	△1,500
営業活動によるキャッシュ・フロー	△104,638	△857,808
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△3,254	—
その他	△2,600	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,854	—
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△25,000	—
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	599,710	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	370,892
新株予約権の発行による収入	4,774	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	579,484	370,892
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	468,991	△486,916
現金及び現金同等物の期首残高	2,032,575	1,461,158
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,501,566	974,242

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、第3回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権並びに第9回及び第10回新株予約権の権利行使がありました。この結果、資本金及び資本準備金がそれぞれ387,377千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が1,419,557千円、資本準備金が10,725,157千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

収益認識会計基準等の適用による、当第2四半期連結累計期間の損益及び期首利益剰余金に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(重要な後発事象)

投資有価証券の売却

当社は、当社が保有する投資有価証券を下記のとおり売却いたしました。

(1) 投資有価証券売却の理由

財務体質の強化及び資産効率の向上のため

(2) 投資有価証券売却の内容

売却株式 当社が保有する上場有価証券 1銘柄

発生年月日 2021年10月21日

投資有価証券売却益 417,736千円

(3) 今後の業績への影響について

上記投資有価証券売却益は、2022年3月期第3四半期連結会計期間において特別利益として計上する予定です。